



めぐみさん

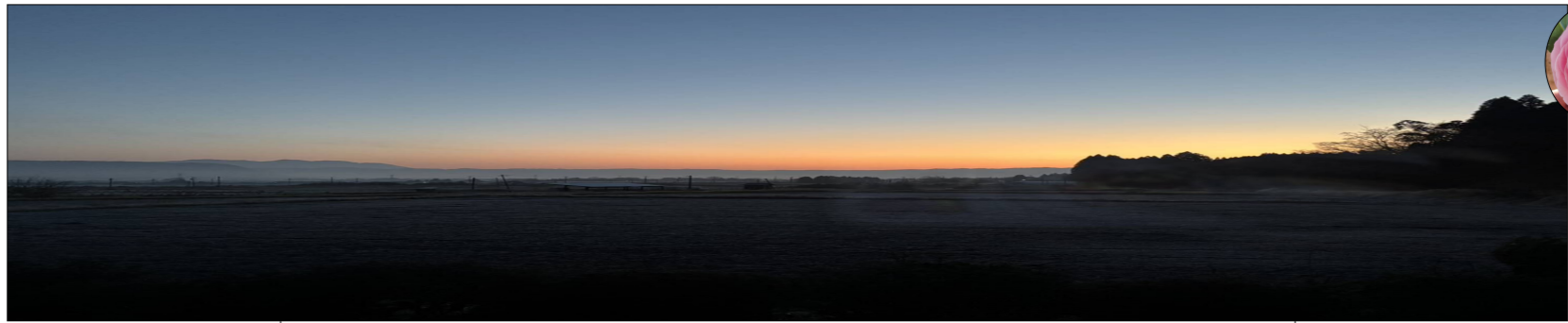
NPO法人「阿蘇きぼうの家」訪問



作業がんばる太郎さん（仮名）

2026年3月3日（ひな祭りの日）に、NPO法人阿蘇きぼうの家さんに出かけた。地活としてねむの木のしたから太郎さん（仮名）が参加している。フルーツ用の衝撃緩衝ネットを折り曲げ、高さをそ

ろえて5個できたら、輪ゴムで一まとまりにして下の箱に入れるという作業を黙って集中してされていた。別の部屋でも作業が行われていたが、そこにめぐみさん（仮名）の小学校時代や高等部時代の同窓生が働いておられ、久々の再会に最初は少し恥ずかしそうだったが、次第にうちとけ笑顔で写真に納まってくれた。帰るときも見送ってくれ、笑顔の花の咲く、この時季ピッタリの取材であった。きぼうの家へ、感謝。



朝焼けの阿蘇 2026年3月9日午前6時ごろ



阿蘇の野焼き 2026年3月8日撮影

ねむの木新聞

発行責任者
荒木博子
869-2301
阿蘇市内牧594-8
0967-32-0861

ホームページ



【編集後記】

春が来た。ウグイスも早朝より、綺麗な声を聞かせてくれている。温泉に通う道すがら、いろいろな春を見つけることができた。きぼうの家でも、春爛漫だった。上の「朝焼け」の写真と「野焼き」の写真は、この新聞の読者から寄せられたものである。地元に住る者しか撮れない、この時季をあらわしたナイスショットだ。「野焼きは草原を維持するために、枯れ草を燃やす草原の管理方法の一つです。現在でも阿蘇では2月～4月頃に野焼きが行われ、真っ黒く焼けた草原が広がる阿蘇の風景を見ることが出来ます。阿蘇の草原は人の手なしでは維持できません」とあった。多くのボランティアの方や地域の方々によって阿蘇の草原が守られていることを改めて知った。尊敬、感謝。（良）